

【活用にあたって】

この記事は小学校6年生で学習する保健の「薬物乱用の害と健康」という単元と一緒に活用することも可能です。ここでは記事を主体的に読んで理解をより深めてほしいと考え、対象を中学生に想定して作成しました。

「脱法ドラッグ」と呼ばれてきた薬物による事件や事故が相次ぎ、呼び名は「危険ドラッグ」に変更されました。

しかし事件や事故の内容はひどさを増すばかりです。中学校では薬物乱用の社会的影響までを学びます。新聞記事が知らせる意味を含めて活用していただけるとよいです。

解答例

問1： ① 多幸感 ・ 大麻

② 覚せい剤 ・ 気分が高揚する

問2： ・ 「誰かが自分を殺そうとしている」という幻覚や幻聴に苦しむ

・ 目がさえて全く眠れない

・ 食欲がなくなり、体重が約20キロ減った

問3： ・ 一晩で3回分を使うほどになった

・ ホームレスになった後も拾い集めたアルミ缶を交換した金でハーブを買った

発展： 自分は絶対にしないという決意を評価しましょう。